

みんなのふるさと

夢プロジェクト

あおぞら共和国

“あおぞら共和国” 2019 たくさんイベント報告

3月1日～3日まで、“あおぞら共和国”では交流棟の竣工式をはじめ、ウィンターキャンプ2019、RDD“あおぞら共和国”2019、新しい熱気球のお披露目など、いくつものイベントを一気に開催しました。

既報の交流棟が完成しました。交流棟は、難病のこども支援活動の生みの親である小林登先生（東大名誉教授・国立小児病院名誉院長・当会名誉会長）のお名前をいただいて「小林登記念ホール」と名付けられました。ホールは最大100名まで収容でき、研修会や親睦会、会議にも利用できる多目的ホールです。ホールには彫刻家の宇賀地洋子さん製作の母子像と、阿蘇ぼう！キャンプ実行委員長で、スタンドグラスデザイナーの高見俊雄さん作のスタンドグラス「花と虹」がホールの一番高い場所に飾られ、また、外科医で画家の後藤久さん作「エディス キヤベル 山」も飾られました。今後はいろいろな活動に利用していただけます。

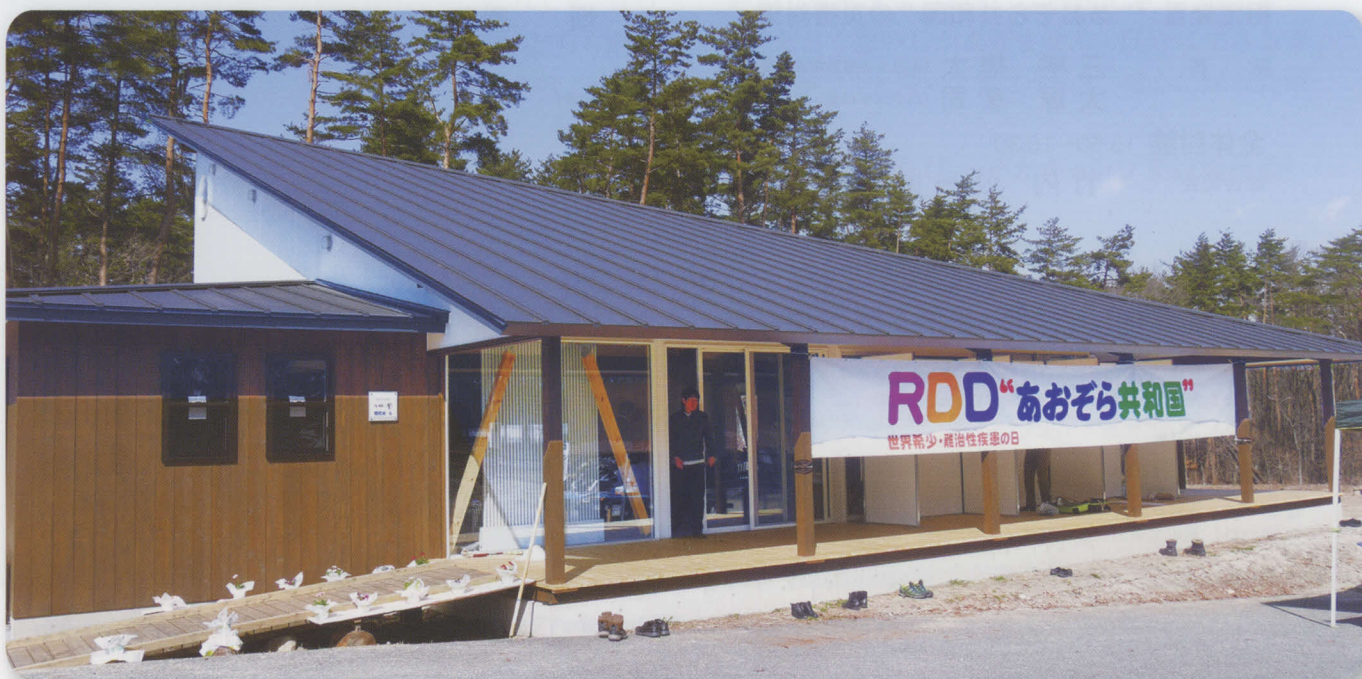
同時に3月1日～3日まで、初めてのウィンターキャンプ2019が建国されました。7家族8名のキャンパーとボランティア・スタッフなど50名が参加、万華鏡作り、木のペンダント作り、豚汁づくりや、ふれあい遊びなど体験しました。また、夏のキャンプに来て下さる地元在住の高橋真理子さんはプラネタリウムと星空観察会でみんなを楽しませてくれました。

この日の午後からは、秋篠宮妃殿下紀子さまがお出ましくださり、お風呂の介助や配膳などをみんなにサービスしてくださり大感激。長い時間参加者と一緒に過ごしになり夜遅くお帰りになりました。

キャンプと一緒にRDD“あおぞら共和国”2019が開催されました。パネル展示や講演会があり、キャンプに参加した家族や地元山梨の難病の子どもさんの体験記などが報告されました。RDDは昨年にも続いて開催されたものです。RDDはレア・ディゼイズ・デイの略で、稀少・難治性疾患の日の記念行事として世界各国で開催され、日本でも2010年から全国の40数都市で開催されています。併せて展示ブースでは、当会を含め10団体に展示していただきました。

3月2日の早朝には当会の熱気球のお披露目です。これまでキャンプでは熱気球をお借りしてきましたが、日本財団と日本歯科医師会からの助成でチェコ製の気球を持つことができました。「トゥースフェアリー号」と名付けられ、みんなでお披露目搭乗を楽しみました。

好天の3日間、色々なイベントを合わせて開催しましたが、参加者の皆さんから口を合わせたように「楽しかった」と言っていました。なお、小林登記念ホールの利用は宿泊と同様にお申込みいただけます。（報告：青柳 耕作）





— 国際的ケアのあるこどもと災害 —

国際的ケア

